

宮崎小兄

昭和39年度

新人合宿報告書

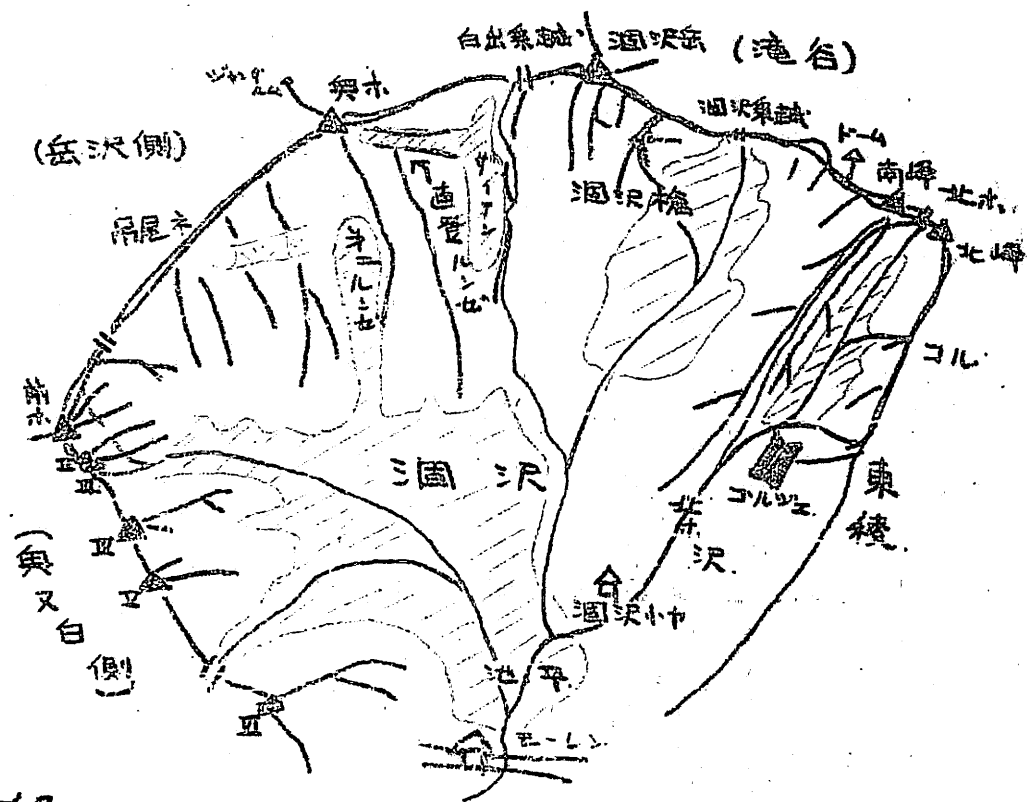
今

あれ新人 何処へ行く
何処へ行こうか 何処行きゃいいんだ
この際、徳本でも廻るか
言いたかぶりほど けうそうだよ

今

あれ新人よ 何処へ行く
何処へ行こうか 何処へ行きたいんだ
徳本も廻る
この際、小栗まで走るか
言いたかぶりほど
また、バテてないよ

信州大学山岳会
伊那松本山岳部



54月
 酒沢兼越 吊尾根 東麓 池平

計画概要

§I 目的

新人の雪上訓練とテント・ワークの修得を目的とし、又上級生のリーダーシップの強化を計る。

§II 日時 1964. 4.28. ~ 5.5.

§III 於

徳本峠を越えて、横尾に B. C. を置き、洞沢、槍沢で雪上訓練。

その他、屏風岩、北尾根、横尾尾根、北穂東稜、3山峰 Face、洞沢岳 etc.

§IV 連絡先

本部 松本市旭町

信州大学本部厚生課 TEL. (3) 4600

連絡先 松本市梶町

信州大学文理学部厚生係 TEL. (2) 2730

伊那市

信州大学農学部厚生係 TEL. 2178

§V Member

- △. 松尾武久 (文社4)
- 真野孝一 (農畜4)
- 板谷真人 (農林4)
- 田中正治 (農林3)
- 西阪 厚 (農畜2)
- 宮崎敏孝 (農林3)
- 中村 洋 (農林2)
- 中邨康文 (文人3)
- 新谷 剛 (医進2)
- 小川 勝 (文人1)
- 宇都宮昭義 (工土1)
- 福原正昭 (農畜1)
- 牧島 鉄 (文自1)
- 牧 晃一 (農林1)
- 菅家延征 (文自1)
- 向後利易 (工土1)
- 井上紀樹 (医進1)
- 西郡光昭 (医学2)
- 小谷雅宣 (医学3)
- 新 幸 英 (農林4)

(29日入山)

食糧係
 裝備係
 記録係
 会計係
 食糧係

(30日入山)

行動記録

4月28日 松本++++ ②島々 岩魚止め小屋 徳本峠
6:35 11:10 3:00 3:30

白沢出合 T.S. (小川 Party 記録)
5:10

朝食は三谷、岡村両君に作ってもらう。部員でない者に Essen の世話になるのは何か割り切れない気持。これから改めるべきである。パーティを2つに分け、快調に徳本峠へ。今年も残念ながら 穂高はその顔を見せてくれなかった。誰か心掛りの悪い者がいたに違いない。

4月29日 〇出発 興又白出合お墓 横尾 B.C. 設営
7:50 9:00 9:25 10:35

例によって先輩の墓に参る。合宿の無事を祈る。横尾では1昨年と全く同じ所に B.C. を建設する。なつかしい気持で一杯だ。あの時と全く同じだ。河原の石も流木も、そしてかまどの跡まで。計画書の切れ端も出てきた。夕方には皆、河原の石に思い思いに坐ってメシを食う 同じ情景が見られた。

4月30日 ①出発 〇洞沢 (雪上訓練) B.C.
5:55 7:30 P.M. 3:05 4:00

全員が洞沢へ行き雪上訓練。キ... クラス... フ... による上下、スト... ア練習、グリセード、制... 確保、コンテ=マスなど。よく晴れていて、皆顔が黒くなった。

5月1日

。(松尾、真野、小川、福原、牧島、菅家、向後、井上、牧)

②出発 横尾本谷出合 ③横尾尾根 ④小 B.C.
6:10 6:55 7:05 8:45 9:00 10:10

1年生と雪上訓練の為に横尾本谷右俣へ出発する。途中でキリ三ヨコとなったが このまま引き返すのは残念と、横尾尾根まで登る。尾根からカールまでのグリセードは快調だった。

○北穂 東稜 Party
(新. 板谷. 西阪. 新谷. 中邨. 中村)

出発 6:10 狹沢ヒュッテ 8:10 稜線 9:15 後不明

天候思わしくなく、狹沢ヒュッテの下で雨が降り出した。長野山岳部パーティと共にヒュッテで天候回復を待つ。雨が上って、長野東稜パーティ出発。続いて予定を変更した北尾根、奥穂東北稜パーティと共に出発。北穂稜沢を少し登り雨にぬれた草つきと小雪渓を登り切り稜線に出る。この頃より再び雨。稜線上はハイ松が密生している。雨にぬれたハイ松をこぐことしばし、小ピークを過ぎると雪稜となる。雪稜は狹沢側は急で本谷側の傾斜はゆるやかである。このころより風つめたく雪に変わる。通称「ゴジラの背中」は雨にぬれた岩稜、小々緊張する。リッジ通しに行く天候悪化のため予定変更し東稜のゴルより下る。概して下部はハイ松こぎでおもしろくなく、登攀の対象となるのはゴルジユエ部からだ。(中邨記)

○横尾尾根 Party
(小谷. 宮崎)

◎出発 6:10 ◎本谷左股出合下 7:10 ◎沢のつぎ馬場 8:10 8:20 ◎右股のゴル 9:15 9:25

◎南岳(尾根終美) 10:25 10:35 ◎檜冬季小屋 11:45 12:10 ◎横尾橋下 13:55 14:10

◎B.C. 14:25

冬季ルートとしてよく利用される横尾尾根の残雪期の記録はほとんど知らない。前日狹沢より眺めた時はハイ松のカーペットが大部分を占めていた。それで冬季ルートの二のガリー、三のガリーを横目で過し、本谷へ入って、尾根より派出するカーの沢(本谷左股出合の200m程下)を登って取付きとする。沢は逆くの字で出合より見た長さの倍もあってステップを切ること1時間、この沢は屈曲部近くで落石の通路となっているので注意を要する。鞍部より横尾の嶺までは1.5m以上のハイ松がビッシリで無雪期はヤブこぎになりそうだ。が、我々は橋渡側に残った雪のベルトを電島に導かれて進む。嶺は150m程の長さで岩稜が不規則に連っている。両側が切り立ったところから冬季は

かなりむっかしい部分になりそうである。眼下に穂玉小屋がみえるので槍沢側の高層感が特にいやな感じを起させる。歯を過ぎると50m程のギャップがあって天狗原上のピークへ出る。あとは淡々として南岳にでてしまう。Camp跡は先の沢のつまあげと最後のピークにあった。歯についてはどの程度積雪があるかで困難さが変わってくるが、だいたいい年生でも使用できるだろうと思う。春山の残物を期待すれ、期待して行ったがほとんど収穫はなかった。しかし穂の冬季小屋には1人で1ヶ月分程もの残物があった。雨の中での行動であったが、深しかった。途中出会ったパーティはほとんど社会人パーティだったようだ。これ程のファイトがあってもいいのではないか??!(官崎記)

・横尾本谷から北稜 party
(田中、宇都宮)

出発 左俣出合 後不明
6:05 17:25

新人諸兄と左俣出合迄、横尾谷を行き、右俣を行く彼氏等と別れて、僕等は左俣をつめだしました。途中、スパッツの替りになるような物又はそのものずばりを求めて行ったら、オーバーミトンも片方だけひろいきました。テント跡には先人のキックステップが可なりはつきりと残っていて、柴びしたがそれからはヒヒヒ云いましたおまけに僕の靴までバテ込んでしまい、1000カリ口をあけてしまったのには弱りました。何せ毎く度にポカリ、ポカリと音がするもんですから。

切戸についてハンとジューズをたべました。北稜の登りはほとんど岩ばかりで別に何とも考じませんでした。岩が濡れていてあまりフリクションが期待できないだろうと云う気持ちがあった事は事実でした。最後に雪がでて来てイグツトいやらしく考じました。おまけに北稜小アでプロックを落してたものだから。途中で出会ったパーティに教えられるように声をかけたのであが……

ギャーギャーとわめいた祈禱ではないと思ひますが北稜小屋を出して受れたお茶は、大変おいしかったぞ。北稜沢の川でハンとジューズをのんで、後は狸沢迄エッサッサ、ピークが出て来る度にあれが狸沢かと期待し下りがでて来る度にアア又もう一度同じ高士まで登り降り事を思ひヒヒヒ云いながら狸沢岳に着いたら、道はピークを踏まぶた下をスイ、せっかくこまで来たのだからピークを踏もうなどという気は毛頭おこらず、冬季小屋まで下りました。冬季小屋に入りしな、何の気なしに書いてある

一斗カンをあけてみれば、なつかしの都一のラーメンが入っていたので、もって帰る事にして小屋の中でパンを食いました。廻沢の下りは、あんまり期待してたのにほとんどグリースードがでまがずにカッカリ、キックステップでありました。廻沢の出合迄、沢をいかに下りたら、本日はじめてのMädchenのパーティに会いました。それで追いついてから、丸木橋の前で一本たてましたが、なかなか来ずあきらめて戻ったら、やっと来ました。今さら座りなおすこともできません。ハカバカとB.C.迄、本日の収穫に心をなごませつつ帰りました。

(収穫物)

オーバーミトン	片一方
ミトン	片一方
ラーメン	26ヶ
乾パン	2袋
コンソメ	2袋
手マグイ	1本
ヘルメット	2発

でした。
(宇都宮記)

5月2日 雨後晴 沈没

早朝には雨がテントを打っていたが、7時頃にはもうやんで薄日ささしこんでいる。薪が濡れていて朝食を作るのに2時間余もかかりがっくりにした。食後各自思い思いに屏風の下などを廻ったりして散歩する。2時頃、西郡さんがやって来た。

5月3日 雨後曇 沈没

今日も朝から雨で沈となる。9時頃には止んで1もうかたから頭に来る。歌とY談と将棋、トランプに明け暮れる。小川氏コバックで大勝。中野氏板谷氏大敗。

5月4日

。(西郡、新、宮崎、宇都宮、牧、管家、向後、井上)
北穂沢で雪上訓練。その後、北穂高岳へ。

。廻沢岳乗積 Party
(小谷、田中)
詳細不明

。前穂北尾根 Party
(板谷、中村)

出発	6.7のユル	3.4のユル	前穂P	廻沢小屋	B.C.
6:35	9:00	12:30	12:30	14:30	16:00

相変わらずあっさりしない天気だ。今日は、体格御立派な板谷さんと北尾根から前穂、吊尾根最低コルから洞沢への予定。6:35例によって隊列を組んで洞沢へ。久しく *mädchen* に会っていなかったせいか、洞沢道で出合うアベックに羨望のまなざしをおくり、ため息をもらして追ぬく。折目のついたトレンカーに香水の臭いのする背広、かさをさして、片手はポケット、毎中は忘からず、狭からず、微笑をうかべて、ホイホイ本々。脚から力がぬけてくる。嗚呼！みるぼろしい我身が嘆かざる。アレコレ考えるうちに取付の、6,7のコルに着く。岩に新雪少し乗っている。まだアイゼンは必要でない様だ。尾根は癒せていないので別断高度感もない。夕又キ岩を右にまいて同じ様な岩稜をゆっくり急がず。オオ槍が見える。4峰の上に来たところ *face* に歪いやしいおニ人がしがみついている。top はどうやら顔の黒さからして小川さんらしい。second は浮乱雲がわき出ているからム一助だ。Call をかける。例の浮乱調が返ってくる。少し何こうに又ニ人現われる。真野さんと牧島か。三峰への上り道は超満員、ガイルが5,6本張られてルートが防がれ、これでは当分通行不可能。時たま *mädchen* の声があるが、それがどれだか見当もつかない。食事とする。食事は終わった。ルートにたまった方々をおしわけして進むことにする。フザけた野郎がアイゼンで小石をかきまわして俺の頭のしんにあてやがった。しかるしをしてやりたがったが同じぐらいの小石が無かったのと敬養と理性がでてそれを防いだ。落石には大いに注意せねばならぬ。奥又の *face* に赤青ガイルのおニ人がぶらさがっていた。12:30 前穂Pに着いた。たくさん御婦人方がおられ、チョコレートやらビスケットやら栗実のかんずめやら、ペチャコテヤ、おしゃべりなせりながらめしあがっておられる。板谷さん曰く西ココで昼食ヤマトコ。向うであんなん食うてんのに、あほらしてこのパン食えんわ田。しかし余りにも差がありすぎる様だ。吊尾根に出る。春山のシヨ...10まで削きながらのん気にプラプラ最低コルを探す。それらしき所を見つけてパンを食う。板谷さんの小キジのしぶさが飛んでくる。ルンゼに降りてみると、見た程傾斜はきつなく、雪はやわらかいので何と云うことはない。グリセードはワシバスとシヨ...ントの危険さかんがみて遠慮する。所々コチコチの雪板に足を取られそうになる。そろそろ下の方の見透しがついてきたのでグリセード。傾斜がゆるくなってくるとサブに足をとうして、シリセードを求め、む。さらにゆるくなるとおきむるにポリチリチンを出して二人乗りのポップスレーとしやれる。体中びシヨ...シヨ...になる。切符代と思えばやすいものだ。一度やるとやめられぬものは何かといっしょ。皿のガリーの水の落ちていいる所で屑に見物。中央カンテにどこかの物がまが取り付いている。もう少し上に登れる。でも何かシヨ...10と

見えて、右にトラバースしては又左に、左によっては又真中
 にと右往左往している。ヒトゴトとはいえ、さぞおこまりの
 ことなのでしよう。下の相沢道を mädchen が通る。下るこ
 とにする。ピッチが上る。期待した程シヤンではないが
 こちらも適当なかつこうしかしてないのでまあ我まんあまじ
 しかたがあるまい。mädchen を追いきると 頭には夕食の
 ことしか残らない。今日の晩飯何ジャロナと足音は言ってる
 様だ。我ながら己のあましましさに ないそがつきる。もっとも
 次の日の朝飯のことまで気にしている奴もいるんだから、こ
 れぐらいはゆるされてしかるべきか。余りまがしい自己批判
 は人間の健全な成長にしようもきたすという。テン場は
 やはりいこいの場所だ。いつも着くとほっとする。夜まで
 何をしたかもう忘れてしまったが Camp Pizer たけは
 賞えている。中夫カンテにはまださっきの奴がウロウロし
 ている様だ。カイ電が動く。明日は下山、今夜もゴブテキ
 and ケーキや Beer の落を見よう。

(中村記)

・三峰 Face Party
 (真野・牧島) (小川・福原)

◎出発 6:30	遊歩小尾 8:00	①三峰Face取付 9:20	登攀終了 12:45
前穂Peak 1:30	奥穂Peak 2:25 2:45	(直登ルンゼ)	B.C. 4:30

三峰 face には真野・牧島と小川・福原の2 party が出かける。
 3,4のエルへの登りで落石も食い驚かされる。既に110-テ
 3人が取付いていて、小石をポンポン落ちるので頭に来る。
 旧R.C.C.ルートに取り付く。30mのガイルであったのと
 二人とも本年度初めての岩登りで調子が出ず意外と暗闇が
 掛る。4峰の上で中村が登んにヤミる。ウルサイ。ダメし
 R.C.C.ルートは楽しい登攀が味わえる。登行会ルートの方が
 困難な感じだ。
 奥穂から直登ルンゼを下る。新雪が乗っていてグリセート
 は楽しめなかった。

(小川記)

Equipment: Haken 3+3 Hammer 1
 Karabiner 6 Eisen 2
 Seil 30m 1 1 waist-rope 1
 捨縄 1

○興穂東北稜 Party (新谷・中村)

その日のアツキ沢は、人でいっぱいだった。ガイテンのとりつきについたのが8:30. そこからアツキ沢の上下をみると、とても多ぜいの人々が楽しみながらのぼっていた。

直登ルンゼの左の稜。それが我々の行く東北稜の末端である。9:05に取りつく。取付處はルンゼ毎5分ばかり行ったところ。別に特徴はない。20mばかり行くとハイ松が出て、カールをみわたせるよいところがあったのでそこにコシを下す。(9:15) 尾根伝いにしばらく行くと、小さな岩にぶつかる。ぶつからぬように左に行く。ちょっとした岩場がある。傾斜がちょっとあって、フリクションしかなく、その上雪でぬれていたのので、ギヤルを出す。岩がかわいておれはなんといいことはないだろう。それをまぎて行けば10m程まわっている。そこでAbseilenと普通はするのであろうがよい筋がないためジッヘルしながらおきる。まんやかに細いクラックが下まであって、hold, stanceとも豊富で00の11。すぐ右が直登ルンゼ。稜がいったんきれて、ルンゼと雪づななっている。(ルンゼの入口)。チョンボすれはここから取りつくにかぎる。しかしこの下も仲々おもしろいから、やはり末端から取付くことをすすめる。忠実にridgeを行くと2pitch程で00にチョックヌトーンのあるところになる。それをこすと上はテラス、平坦なところが20m程つづく。右側をこし下ったところに、けんちよなクラックがある。そこはおいといてあくまでridgeどうしに行く。又クラックにぶつかる。右側の岩稜をいに行けそうだがハーケンも打つてあることだし、クラックを通ることにした。出口がせまくななり時間をとられる。これをこすと、20分程で興穂のpeakである。所要時間3時間35分。

(反省)

意外としごかれる。安全ホーピアンザイレンをして、Continuousで行けそうなの所もジッヘルしながら行ったため時間がかかった。もっとスムーズに行けるだろう。下のクラックではなく上のクラックを通ったがどちらかよいかはわからぬ。下は通ったことがないため、ただこのクラックは上部で左にぬけるため細いカールが、よくながめわたすことが出さ。高感00たいが、忘れが感ぜられて、仲々よしいところである。全体として、決してむつかしくなれ、楽しいところである。

装備. 30m麻ギヤル 1本 ハーケン 3つ 各1本
トンカチ 1本

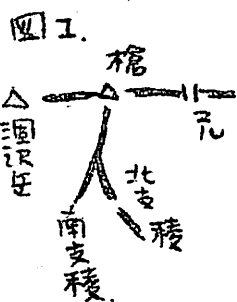
〇洞沢槍東稜 Party

(松尾、西阪)

出発 6:35 ガイテン 8:30 取付 (2pick) 下 (100) 4pick and Contentis 12:00

頂上 1:55

二郎三郎武久と松尾氏と洞沢槍東稜へと出掛ける。皆さん東稜って御存知かな？ なに！ 「干ートも知らなかつた!!」心細いね。実は僕も「知らなかつた」まるまる心細いね!



四1. 図1の様に洞沢槍から東側に稜が派生し、途中で二手に分れ、南支稜、北支稜となっている。取付まで洞沢小やの上から雪渓をつめて行くと、他partyの衆が5.6人既に取付いている。待つのはばがらしいと1つ手前の岩峰から取付く事にした。四2の様に実線が正ルートで実線は僕達の通ったルートである。時間つぶしの積りで登ったこの岩峰、全然しゃぱく2pickに2時間も掛ってしまった。所々ハング気味で、昨夜の新雪がついており左右前後の石が全部と云っていい程浮いている。小さい石が浮いているならまだしもと云った所だが大は等身大の奴からサブザック大、コブミ大と真に神解を使う。お世辞にも快適なクライミングとは云えない。



この2pickを終るとあとはグット趣か変ってContentisを交えた快適なもの。同じ岩場でこうも違うのか。岩は安定し、Hand Hold、Foot Holdは豊富だし、まるで北尾根を歩んでいる様な感じである。

(Don Mako 記)

5月5日
◎出発 9:15

徳沢 10:10 10:20

上高地バス停。——島々——松本 11:20

1年2年3年各1人づつる人がパーティイになって横尾を出発、昨日テントを張ったと思ったら、もう撤収。全くあつという向だ。強者どもが夢の跡にも別れをつげスタコラサッサとバス停まで歩く。

合宿を終えて

C.L. 松尾次郎三郎武久

新人合宿は余り天気にめぐまれなかったが、新入諸君におかれましては、初の山岳部の合宿であったので、色々と思い、又不信に思われた事だと思っております。しかし、我が部のカラーとか、雰囲気の一部なりとも分っていただけたと思っております。

○ 大学生ともなれば、与えられる山行よりも自分から進んでぶつかっていく山行をやってもらいたいと思っております。我々がよく云うところの考えある山行をしてもらいたいと言う事です。

大学山岳部においては、学生であると言う基礎に立って、安全なしかも意欲ある山行をやろうとする事が一番重要な点だと思います。山の一端を知るだけでなく、広く山を知る様な努力をする事です。山が好きであると言う仲間の間で、自己を練磨しようとする所にも、大学山岳部の有り方の一つがあるのではないのでしょうか。

我々の山岳部はホームグラウンドとしての北アルプス、南アルプス、中央アルプスと広く山行の対象となる山には事欠きません。しかし、学部が互いに離れていると言う、地理的ギャップがあります。このギャップを無くしようと昨年より連絡を密にしようとかましく言われて来ました。ややもすればおそろかになりがちでした。我々はここで一考して、昨年の二の舞を踏んではならぬと思っております。昨年と同様の結果に終る事は、我が山岳部は、山行の面で発展している様に見えても、実質上は後退であると思われまします。

本年度は分散形式を取っておりますが、計画提出に当っては一ヶ月前には完全なる計画書を作成して、総会に提出していただきたいと思います。この事は、山行の承認、準備にとってはいきわめて重要な問題であります。部員各位の目覚で、守っていただきたいと思います。

我々は今年度の一番最初の合宿を無事終えました。これから本当の楽しい山行が始まる筈です。全員、各自の自発的な山行を大切に、有意義にこの一年間を過ごしてもらいたいと思っております。

我々は、あくまで遭難する事のない明るい山岳部を作る様に努力しようじゃありませんか。特に今年は、2年生、3年生のハッスルを期待致します。4年生におかれては、敵駈、車論その他色々忙がしいと思いませんか。暇を見つけて、後身の指導に当たっていただければ幸いです。

進

1964.5.14.

各係反者

Essen係

今合宿は一人一日分140円出で徴収し、朝晩米とし合宿につきもののマカロニ、ラーメンといったものをオミットした
 悔れな献立でした。(リーダー要請により)
 実際は朝にエッセン費140円——物価高がハン代の
 高トウにより値上げした——として充分な計画を立てたので
 すが130円弱となった内容です。130円弱とは係自身と
 してもほんに驚いた分けで習慣とは全く恐しいものです。
 あの程度の献立で満足ならぼ冬春山以外のエッセン費は
 未だ値上げせずともやっけていけると結論がびました。
 オスに朝晩の米飯(主食)は特に上総部員には長年の合宿
 に於けるラーメン、マカロニの愛着が強く、主食all未への
 淋しさを語る声があがりました。そして幸運にもパトロール
 のラーメンにて遂に一度ラーメンを使用し、満足して頂き
 ました。この結果は献立に変化をきたらし大いに喜んだ故
 です。そういう故で主食はやはりall米ではなく、ラーメン
 、マカロニといったものを取り入れた方が良かったと思っ
 ています。
 オスに、昼の飯とは春山より重量が増えた代りにその時よ
 り味が幾分落ち、満足したものを得られませんでした。即ち代
 の値上りの割にはそれほどの良いものとは思えません。あれたの
 で、この方は次回より係になつた人は即ち屋にルツパまがけ
 の心算があると思存します。次回よりは合宿合宿の好みに
 応じて最も好む人は今回のようなパソ、飯を好む人は春山様
 夜の即ち卵と、メンバの絶好の好みにより、量が賢か
 を求めれば良いかと恐ります。
 また、昼には合宿の形に依りて飯の弁当をといったものを
 考慮しても充分に満足できると思いますが、弁当の工夫も
 し利用の余地があると考へていきます。昼食については昔の考
 えで、うまい食をとりたいと思ひます。
 こので實際の献立はどうかあつてもかと云いますと、

	朝		晩	
28	ミソ汁	と 玉子	カレー	と 福神漬
29	〃	と 佃煮	五月飯	と お汁
30	〃	と 納豆	魚肝油	と 仏じき
31	〃	と 佃煮	千層パン	と スープ
2	ラーメン		銀タテ	と スープ
3	ミソ汁	と 佃煮	カレーライス	と 福神漬
4	〃	と 〃	しちゆー	と 佃煮
5	〃	と 〃		

上記の如くになり、エッセー係として最高の献進を直してたつとりを居ります。(但し、2日分のラナー、3日のホレ一はパトロールの品物と便所、変更をしまし。朝食には夕クワツをわけ、御煮を増やしまし。長分と反省して居ます。味付け用の調味料をくびに天カスの使用は各人の好みが自りますので、当惑の人はどる瓶王頭に入れて味付け等をしていただきます。最後、名刺は皆様の協力でエッセー関係の務をスムーズにする。お集りしたものと御礼申上げます。先輩諸兄の御批判をお待ちして居ます。(藤原記)

レポートについて

この報告を読んだ人はその雑さに驚くことだらう。我々はもっとレポートを重視してもよいのではないか。山登りは計画から始まって、報告に終るのである。記録は次の山行の土台となるべきものである。我々の部に於いては記録をもその重大さを考えていまい人か多いのではないか。記録係から提出を言われて、ぶっつけ本番で書き、読み返してもていまい。誤字、あて字、かた使いの誤りなどはいうにおよばず、原稿用紙に訂する書き次第も知らない。これでは大学生が書くというものだ。アカデミックな登山とはほど遠い現状である。そこで次のことを提案したい。ホリにレポートを書く時は必ず辞書をかたわらに置いておくというこゝである。そうすればつまらない誤字、あて字などをなくするこゝができる。ホリに本を詠むというこゝである。それも書くというこゝを頭の中に入れて読むのだ。そうすれば自分の語のうを小やすこゝができるし、自分の気に入った文体も真似したりしている内にだんだんうまく書けるようになる。

この次からは もっと充実した報告にしよう。

(小川記)

- 風の歌は山の歌だ。
- ガイルは君と僕との心をつないだ。
- 山頂と谷底とが同じように嬉しい場所だとは誰が見出したのか。
- 雲の湧きあがる峠路をひとりで辿ってゆく時の愉しさ。
- ベルグシュタイガーはみず山のなかにおのおののハイマートを
持っている。
- 春に行ってよかった山へは、秋にもまた行こう。
- 山ほどその肌色もよく複雑多様にかえるものはない。たった
光と影と風と空気の四つの染色素しかもっていないくせに。

大島亮吉「小屋・焚火・夢」より

ガイルパーティの同僚愛こそ、真にあはらしいものだが、この
クラックの端までは一人の力で行かなければならない。一人
でこれを攀じるのだ。20m下には仲間がいる。もしスリッパし
たら、墜落はひどかろう。ガイルがちゃんとあるにはあっても、
役には立たない。しかし、私はガイルなしには、友情なしには
登れない。このガイルが心を温めてくれるのだ。

カストン・ビュア

39年廣 新人合宿をおえて

菅家延征

ごたごた書くのは わずらわしいので 個条書きにまとめんと欲する。

1. 徳本の様在所ではもう少し新人間の体面差を考慮に入れる必要があると思う。
“平等とは 等しいものは等しく、等しからざるものは差別して 取扱う事なり” — Dr. 戸の本—
2. 沈黙の 通し方をもっと工夫すべきである。
3. 気に入った美。
 - イ) 外面的な カッソーも 盛あまり 気にして いるような美。
 - ロ) 極めて 民主的な ムードであったこと。
 - ハ) 荷物に 差をつけなかったこと。
 - ニ) ザツイ 美 (もともた ザツイ するものは どうかと思うけれど)
4. 下界における トレーニングは、もっと 計画的に行うべきだと思ふ。

5. 部内の毎年ムードは断固として
これを打破すべきだと思ふ。

6. 先輩は皆、本当に好い人達
ばかりだ。

Enseikante

新人合宿の感想

牧 晃一

眞の登山をやるには、どうして自大学の山岳部に入部して鍛えられろのでなければ眞の技術は身に付かないと思ひ、弱冠ながら山岳部に入部し新人合宿に参加致しました。何か…生活が長かつたので体力の点は問題にならず、入山してつくづく日頃のトレーニングの重要さを痛感致しましたし、又所に銘山次郎であります。装備の点におりては、大学の山岳部の用意が非常に良く整備されているのには我ながら感服し、かえつては自分の個人装備の貧弱さを暴露、特に登山グッズの件に於いてはまさに論より証拠で、自分の足にピッタリと合つた物と、こういうことを身を持って味つた。それと個人装備の量も非常に無駄な点が多く（これは自分にとって初めてのはずの春山で経験がなかつた、ということもあつたのだが）山びばら原因となつたと思つてゐる。以後は今回の合宿を基に、必要で十分な条件を揃して、出来るだけ個人装備の量を軽減したいと思つてゐる。

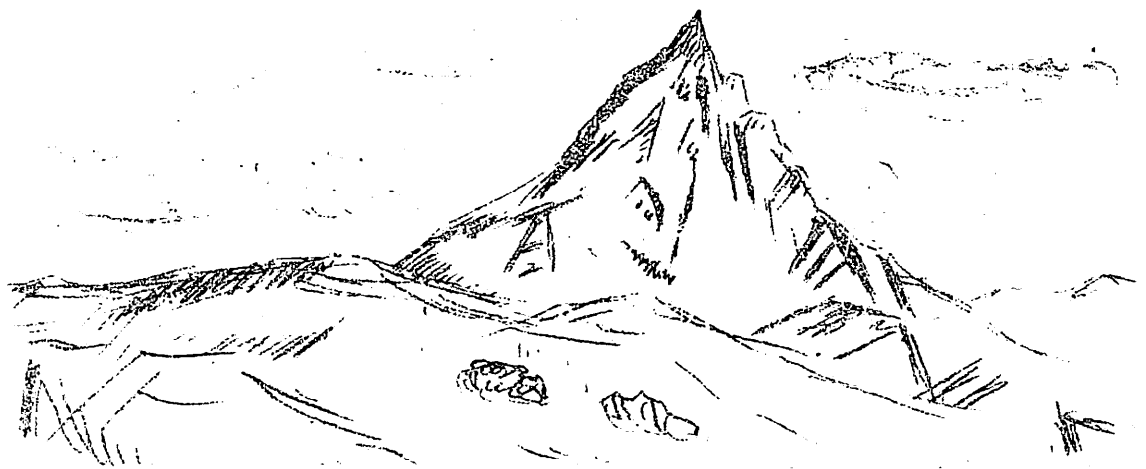
入山中の行動については、一口に言って非常
に人どろかったし、又つらかった。今まで
いつも my pace で歩いて来たので、信大 pace
に乗れる。先輩諸兄には時間と点その他の点
でいろいろと迷惑を掛けたと思ひ。以後信大
pace というものに乗れるよう努力致したと思
っております。しかし先輩諸兄がいろいろ
と親身になって、情けを押し殺して、この般
潰しを励まし、又叱責して下さった点非常
感謝致しております。テニネットワークにする、
新人と上級生との関係にする、思つたよりも
民主的で紳士(?)的であつたので喜んでおりま
す。又山と俗界との区別の点でもはつきりし
ていて好感が持てた。

技術面においては、キックステップ、グリセ
ード、ストツプ訓練等自分としては初めての
ことなので、一生懸命やつたし又上級生先輩
諸兄のお陰でなんとか格好おつくようになり、
我ながら新人合宿に参加したおろおろ
と思つております。その中でもキックステッ
プの大切さを痛感致しました。あの横尾沢、
涸沢の雪渓を一步一步踏みしめて登って行つ

大馬のつらさ、今思つてもゾッとしてしまふ。
しかし登り切つてコルへ到達した時の気持ち、
北極のピークを踏んだ時の喜びは何ものにも
変え難い感がある。稜線で腰を下してタバ
コを出し、煙をくゆらしてポカーンと青空を
ながめ、雲の中へ今日さへに隠れ人とする。槍ヶ
岳を見、又雲海にアカ／＼潜んでいる北極の
峰々を望見する時のすばらしさというものは
筆舌に尽し難いものがある。

雑記になるが、今後も又その後も、登る時
のしんどい——苦痛をも昔のことの様に
忘れ、そしてあのすばらしさを求めて、欲き
もせずもうバテバテ、バテバテと言いつつ
登るのであろう。 The end.

1964: 5-13. PM 11:08.



1964年度 新人合宿 会計報告

収入の部 $1650 \times 18 + 1200 + 890$

31790 円

支出の部

Essen 米代 6078
 ア×代 600
 印代 190
 赤本× 6500
 シューズ 100
 パン代 7172
 ミソ代 380

21020
 計 20640

装 備 石油代 200
 ハッ代 250

計 250 円
 (65×18×2)

運 賃 電車 2340
 バス代 3780
 荷物代 1400

(210×18)
 (200×7)
 計 7500 円

~~33410 円~~ 28790 円

残金 ~~3380 円~~ 味×代 380 円
 3000 円

内 2000 円は 参加 Member の 1 月分の
 部費代とし、又 残金 ~~1380 円~~ は 無条件に
 部費に繰入れました。 1000

以上

新人合宿 会計係 宇都宮